

不正咬合学入門（山口徹太郎）

The introductory course for science of malocclusion (Tetsutaro Yamaguchi)

キーワード

- ① 歯科矯正学
- ② 不正咬合
- ③ 成長発育
- ④ 診断学
- ⑤ 治療学

関連する学位授与方針

- ①
- ④
- ⑤

関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ⑤
- ⑥

授業概要

矯正歯科治療の目的と意義、成長発育、咬合、不正咬合の原因、不正咬合の予防、矯正治療に伴う生体反応、矯正歯科治療における診断学、治療学について講義する。個々の症例に対する診断、治療法を立案する。

授業科目の学修目標

矯正歯科治療の目的と意義を理解する。成長発育を理解する。咬合を理解する。不正咬合の原因を理解する。不正咬合の予防を理解する。矯正治療に伴う生体反応を理解する。矯正歯科治療における診断学、治療学を理解する。矯正歯科医としての倫理について理解する。

授業計画

- ① 矯正歯科治療の目的と意義 2コマ 山口徹太郎
- ② 成長発育 4コマ 山口徹太郎
- ③ 咬合概論 2コマ 山口徹太郎
- ④ 不正咬合の原因と予防 4コマ 山口徹太郎
- ⑤ 矯正歯科治療に伴う生体反応 2コマ 高橋正皓
- ⑥ 矯正歯科治療における診断学・治療学 12コマ 山口徹太郎、小泉 創、高橋正皓、畠中玲奈
- ⑦ 矯正歯科医としての倫理 4コマ 山口徹太郎

教科書および参考書

歯科矯正学 第6版 医歯薬出版。プロフィットの現代歯科矯正学 クインテッセンス出版。

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

大学院教育と同時に、日本矯正歯科学会 認定医育成に準拠したカリキュラムで研修する。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 矯正歯科治療の目的と意義を理解する。② 成長発育を理解する。③ 咬合概論を理解する。
- ④ 不正咬合の原因と予防を理解する。⑤ 矯正歯科治療に伴う生体反応を理解する。
- ⑥ 矯正歯科治療における診断学・治療学を理解する。⑦ 矯正歯科医としての倫理を理解する。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	10%	0%	60%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・小テストは、倫理的な理解について評価される。10%
- ・成果発表は、個々の症例における診断、治療法を評価する。10%×6回 = 60%。
- ・成果発表時に口頭試問がなされる。5%×6回 = 30%。

理想的な達成レベルの目安

不正咬合学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。